

## 普及活動情勢報告（令和6年2月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

### ショウガの土壤病害を乗り越えよう ～土壤還元消毒実証試験打合せ～



次年度の試験に向けたオンライン打合せ

ショウガの難防除土壤病害のひとつである根茎腐敗病による被害は大きく、対策の確立が急務となっており、R6年に新資材を用いた土壤還元消毒の実証試験を計画しています。

そこで、1月23日に本病により大きな被害を受けている生産者と、土壤還元消毒の資材メーカーが、これまでの取組状況や課題についてオンラインで意見交換を行いました。

生産者からは、実証試験の時期や資材の投入方法、不安や疑問点について意見や質問が出され、活発な検討が行われました。

普及所は生産者とメーカーをつなぎ、情報をしっかり共有して実証試験がスムーズに実施できるよう支援していきます。

### 病害虫の被害を減らそう ～四万十町次世代団地病害虫対策検討会～



検討会の様子

1月25日、四万十町次世代団地病害虫対策検討会を開催し、次世代団地職員2名と県関係者で検討を行いました。

次世代団地では、トマトやパプリカを栽培しており、トマトホモプシス茎枯病や黄化葉巻病、コナジラミ類などの対策に苦慮しています。

今作は、普及所が提案したトマトホモプシス茎枯病に対する防除体系に沿って管理されており、現在、発生は見られていません。出席者からは「防除体系によって他の病害も抑えられているようだ」「これから発生が増える時期。今後注視しなければならない」等の意見が出されました。

春先に向けて病害虫の発生が多くなるので、普及所で発生調査を行いながら、早期発見と早期対処の実践ができるよう支援していきます。

### 他産地の栽培管理は？ ～JA高知県四万十ニラ部会青壮年部視察研修～



現地ほ場で、活発な意見交換

2月1日、JA高知県四万十ニラ部会青壮年部員18名が、佐川町斗賀野のニラ出荷場と現地ほ場の視察研修を行いました。

研修では、四万十町よりやや低い温度管理での栽培方法を見学し、「ネギみたいに色が濃い」「こんなニラを作らないかん」といった意見が聞かれ、自分たちの栽培方法（高温管理による倒伏の発生など）との違いを確認し、活発な意見交換を行いました。

普及所は今後もJAと連携し、高品質なニラの栽培を推進していきます。

新たな露地品目の探索

～愛媛県松前町での白ネギ視察研修～



白ネギのほ場管理説明

四万十町内の野菜生産者から要望を受け、2月6日、愛媛県松前町に白ネギ産地の視察研修を行い、生産者と関係機関の計8名が参加しました。

研修先のは場では、JA松山市の営農指導員から技術・経営面の説明を受けた後、経営主のトラクター操作による根切り、収穫作業を見学しました。また、出荷場においては、収穫後の白ネギの出荷工程について、根葉切り皮むき機、選別機などの説明を受けました。

参加した生産者は、「実際に見て作業のイメージが沸いた」「この春から試作してみたい」と前向きな意見が聞かれました。

普及所では今後も関係機関と連携し、四万十町の園芸振興に取り組めます。

農薬トラブルをなくしましょう ～JAみどり市直販部・農薬安全使用講習会～



農薬安全使用のポイントを解説

2月1日、JA高知県高西地区農協会館において、みどり市直販部の部員32名を対象に、本年度2回目の農薬安全使用講習会を実施しました。

講習会では、種苗会社による春野菜の栽培講習、普及所からは、農薬使用の遵守事項、誤使用の事例、適用作物、農薬の計量・調製方法など、農薬の安全使用について説明しました。

事務局が実施したアンケートでは「毎回聞くことで思い出し気を付けようと思う」といった意見があった一方、「何回も出席していれば受講しなくても良いのでは」という回答もありました。

普及所では今後も引き続き、JAと協力して農薬安全使用の周知を行います。

集落営農等の先進地に学ぶ

～高南地域集落営農組織代表者連絡会先進地視察研修～



福祉法人から取組内容の説明を受ける

1月25日、愛媛県西予市の(農)加茂ファームと百姓百品グループへ先進地視察研修を行い、関係機関を含めて17名が参加しました。

普及所は研修先の提案を行い、(農)加茂ファームでは、役員世代交代と加工用野菜栽培による外部人材の雇用、百姓百品グループでは、400名を超える生産者の農作物の出荷販売、農福連携による加工用ネギの生産販売の仕組みづくりを学びました。

参加者からは、「後継者確保はどのように進めたのか」「ネギの出荷先や販売額は」など活発な意見交換が行われました。

普及所では今後も引き続き、集落営農組織の活動維持に向けて幅広い提案を行っていきます。